

序 文

新しいスタイルの手術書シリーズ「ビジュアルサージカル」の第1巻『消化器外科手術 上部消化管』をお届けする。

上部消化管の中心である胃外科は、「切除・吻合・再建」を行う消化器外科の基本である。そして手術の施行に当たって重要なことは、技術は勿論のことであるがどのような考えに基づいて手術を行うのか、手術の目的は何なのか最も重要である。その意味で、本書では『胃癌治療ガイドライン』を基本とし、どのように手術を進めていくのか、その際に重要なこと、注意すべきことは何なのかをわかりやすく記載してある。

さらに重要かつ基本的なこととして、各臓器の解剖や組織の成り立ちへの理解が必須となる。本書ではその点を踏まえながら、手技上のポイントについて大変わかりやすいイラストが記載されていると同時に、動画で実際の手技を見ることができる。このイラストと動画の両者を活用することによって手術のより具体的なイメージが想起され、安全で安心な手術の施行が可能となる。

本書は、「刊行にあたって」に記載のとおり、若手の外科医、そして専門医を目指す消化器外科医のみならず、消化器外科医の育成に当たられる指導医の先生方にとっても大変役立つものと思う。

各項目の記載に当たっては、第一線でご活躍の新進気鋭の胃外科医、さらにはベテランの消化器外科医の先生方に執筆をお願いしたところ期待にたがわず、いずれも素晴らしく、そしてハイレベルな内容になった。ここに執筆者の先生方に心より感謝と御礼を申し上げます。

以上、本書が消化器外科医にとって大変役に立ち、そして何よりも患者さんのためになることを願い、そして確信している。

2018年9月

公立昭和病院 院長／東京大学名誉教授

上西 紀夫